

高原町立高原中学校

事業の実施時期：補助を受けた日から 令和6年3月11日

活動の概要

- 生徒会活動の一環として、「ゴミ0（ゼロ）」運動を実施した。
- 「日本発祥地まつり」の会場において、使わなくなったおもちゃ、ぬいぐるみ等を回収し、支援団体へ寄付する活動を行った。
- 第1学年総合的な学習の時間において、地域住民とともに植樹活動を行った。

SDGsの視点：「11 住み続けられるまちづくりを」「12 つくる責任、つかう責任」
「13 気候変動に具体的な対策を」

1 学校の概要

本校は昭和22年に開校し、平成9年3月に現在の場所に移転した。令和8年度には、町内の小・中学校が統合し小中一貫校としてスタートする予定である。宮崎県西部の霧島連山の麓に位置し、自然豊かな環境の中、教育活動に取り組んでいる。平成23年1月には新燃岳噴火により大きな被害を受けたが、全国からの支援や協力を得ながら、復興を果たすことができた。

現在は197名の生徒が在籍しており、純朴で素直な生徒が多く、行事や部活動などに熱心に取り組む場面が数多く見られる。しかしながら、学習面に関しては取組に個人差が見られ、学力の二極化が生じており、学力向上は本校最大の課題である。環境教育に関しては、国や県指定の実績はないが、生徒会が中心となってSDGsと関連させた委員会活動や学級花壇の整備、ペットボトルキャップ回収などの活動に取り組んできた。また、毎年「新燃岳を考える日」を設定し、防災に関する学習や町内一斉引渡訓練などを行っており、高原町に住み続ける一人として環境について考える機会が多い。

2 活動のねらい

- (1) SDGsや4Rに関する興味・関心を高め、環境問題に目を向け、4Rについて主体的に関わろうとする態度を育成する。

- (2) 高原町の環境における課題について生徒会活動や地域との協働活動を通して日常的な4R活動に取り組む実践力を育成する。（SDGsの視点：「11 住み続けられるまちづくりを」「12 つくる責任、つかう責任」）

3 活動内容

- (1) 「ゴミ0（ゼロ）運動」の実施

高原町一貫教育推進プランにおける実践内容において、毎月「0」の付く日の昼休みを利用して清掃活動を行うという取組を行っている。普段とは違い、町に貢献できる活動として、正門から生徒がよく通る道路（町道）のゴミ拾いを行った。

地域のため、住み続けられる町づくりのために自分たちができることについて考え、行動する良い機会となった。



- (2) 使用済みおもちゃ等の回収・寄付

毎年、高原町で行われる「日本発祥地まつり」において、生徒会ボランティア活動「いいことシップ」として、使わなくなったおもちゃやぬいぐるみの寄付活動を行っ

た。校内でも回収活動を行っていたが、思うように集まらず、中学生が実行委員として参画するこのまつりにおいて、地域の方々の協力をいただくという提案があり、実践した。まず、町の回覧板で案内チラシを配付し、地域の方に周知を行い、まつり当日に回収ブースを設け、回収を行った。

チラシを見た地域住民から予想を超えるおもちゃ・ぬいぐるみを提供いただいた。いただいたおもちゃ類は後日梱包し、支援団体に寄付した。生徒も想像以上の回収量に驚き、地域と協力することの大切さを実感したようである。学校のホームページでも回収の様子を写真で紹介した。

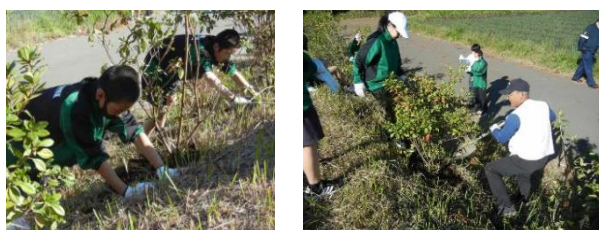
なお、当日はペットボトルキャップも同時に回収し、今後寄付を行う予定である。



(3) 地域と連携した植樹活動

町内にある鹿児島山地区に「おてらんば展望台」という観光名所があり、赤そばの花が観光客を楽しませている。令和2年度から、地区の住民と協働で街路樹を植樹する活動を行っている。今年度も1年生70名が活動を行った。はじめに区長が地域おこしの一環として展望台を整備し、少しずつ植樹活動を行うことで、大切な自然を守る活動につなげていることを説明された。

当日は、地域の方を始めたくさんの方が活動に参加し、生徒も慣れない手つきでツバキの植樹作業を行った。緑を増やすことが環境保全に繋がること、自分たちが実



際に活動に関わったことで、地域に対する愛着が高まり、高原の自然を守っていききたいという自然愛護の気持ちを高めることにつながった。

(4) 環境保全に関する講話

2年生を対象に行った立志式において、探検家でスリランカの遺跡調査に関わった岡村隆氏を講師に招き、講話を行った。密林や水辺などには様々な食物や動物が生息し、自然保全の大切さを感じることができた。

4 成果と課題

(1) 成果について

生徒会活動を中心に「SDGs」の視点に立ち、委員会活動を行ったり、環境問題について考えたりする機会を得ることができた。特に、地域の協力を得ることや、地域と協働で作業することを通して、幅広い世代に渡って環境問題に取り組んでいかなければならないことを改めて認識することができた。

(2) 課題について

活動によっては全学年で一斉に行うことができないものもあった。生徒の発達の段階に応じて、計画的に学習を進めていく必要がある。

感染症対応が緩和されたものの、外部講師による全体での学習の機会はタイミングが合わずに実現しなかった。地域での取組が中心となったが、もっと大きな視野で学ぶ機会が必要と感じる。

学校名：高原町立高原中学校

住所：西諸県郡高原町大字西麓709番地144

電話番号：0984-42-1057

E-mail：4415jc@miyazaki-c.ed.jp